



阪神淡路大震災

95年1月17日の阪神淡路大震災の後、大同事務所から、「村の人たちが心配して、救援物資が必要なら送ると言っている」というファックスがとどきました。水道・ガスの復旧は阪神間の広い範囲で遅れていましたが、電気は早くから通じていました。考えてみれば、もともと水道もガスもない大同の農村と同じ状態です。いいえ、水を汲むのに天秤棒でバケツをかついで1時間も2時間も歩く村とくらべればまだましなぐらいです。「大丈夫だから心配しないで」そう答えながら、村人たちの気遣いに胸が熱くなりました。

2月の会員総会、春のワーキングツアーを2組というハードなスケジュールをあえて予定どおり実施したこの年、GENは大きな試練をのりこえたといえるでしょう。

そしてこの時「貧乏でお金はないから送れないけど、ジャガイモでもアワでも送るよ」と言ってくれた大同の農村の人たちは、16年後の東日本大震災の時には義援金を届けてくれたのです。特に呼びかけたわけでもないのに、プロジェクトのある村々から大同事務所に届けられたとか。これが、「人の心に木を植える」ということなのかもしれません。